

社会学Ⅱの概要と時間外学習の促進

社会科教育・魁生由美子

1. 授業の基本情報・概要

本授業の目的は、社会学理論の基礎を学習し、近代社会の成り立ちについて理解すること、次に、近代社会が内包する積極的側面と消極的側面について、現在の社会問題とかわらせて考えることである。

本授業の到達目標は、現代社会の在り方が、近代化の過程で生ずるさまざまな社会変化によって形成されてきたことを理解すること、そして社会変化とは、具体的にどのような現象であったのか理解し、現代社会の諸問題と結び付けて議論することができることとして設定した。

3 回生以上を対象とする社会学Ⅱは、2 回生以上を対象とする社会学Ⅰを履修したのちに履修する。社会学Ⅱの合格者は、4 回生以上を対象とする社会学Ⅲの履修ができる。

2016 年度の本授業は、履修者数 20 名であった。内訳は社会科教育専修、人間社会デザインコース、教育学専修の学生である。授業開始時に出席を確認し、遅刻者のチェックも厳密に行った。毎回の出席率は約 90 パーセント～70 パーセントであった。授業スケジュール中、2 コマ分で中間ふりかえりを兼ねた視聴覚教材の視聴を行った。毎回の授業は A44 枚程度に相当するレジュメを配布し、適時、参考すべき文献および視聴覚教材、web ページを紹介した。文献の貸し出しを希望する学生については、貸し出しを行い、時間外学習の促進を心掛けた。

2. 授業評価・授業研究の内容

授業評価について、自由記述方法で学生に授業に対する意見やコメントを書くように A5 の様式(記名式)を配布した。第 8 回目の授業時に実施した授業評価の一部分を以下列記する。

○チャップリンの「独裁者」はずっと観たかった映画の一つだった。当時のアメリカが、ヒトラー率いるナチスをどのようにとらえていたのかがわかる重要な映画だ。今の時代になって、最近少しずつヒトラーに関連する映

画がつくられているが、この「独裁者」が世界で初めてヒトラーをモチーフにしたのではないだろうか。最後の演説シーンは一部見たことがある。

○私は、法律やルールがどのような規準で決められているのかということについて疑問を感じた。私は単純に、自分がやられて嫌だと思ふことはきっと他人が嫌と感じると思ふから、それをやってはいけないんだろうと思つた。でも、きっと、こんな単純な理由ではなく、もっと複雑であるとともに、そこにまた権力者という存在が出てくると、全くもってわからなくなって来た。

○独裁者の気まぐれや感情的な発言によって多くの人々の生活が大きく変化してしまう。恐ろしいことであると感じました。兵士たちは民主主義をとるチャップリンの言葉をどう聞いていたのか。独裁者のもとに働いていた兵士にとって民主主義とは何か？

3. 「授業時間外学習の促進」について

先述したとおり、授業中、適時参考文献等の紹介を行った結果、2 名の学生が研究室図書への貸し出しを希望したので、当該図書を貸し出した。貸し出しを行う際、メールのやりとりを行い、図書の読解ポイントを提示した。視聴覚教材については、第二次世界大戦中のプロパガンダ作品や専門書を紹介した。ほとんどの履修学生が Web で視聴することができる作品を視聴した旨、報告を受けた。

成績評価は期末試験の結果に重点を置いて行った。キーワードをレジュメで復習し、web 検索を徹底することにより、完全回答できる内容であった。成績は秀 40%、優 10%、良 5%、可 25%、不可 10%、評価しない 10%で分布していた。レジュメの復習、紹介文献・資料の自主学習等の、時間外学習の有無があらわれたように思う。

4. 総括

文献等の活字資料の重要な部分を印刷し配布する等、引き続き「読む力」を育む工夫に努めたいと思う。